

我が町の協力隊

～現在の活動について～

松葉 知香

Q. 現在の活動内容はどんなものですか

A. 細々やってることもありますが分類してみると主に四つです

1



特産品開発

既存の特産品の一つであるクラフトビールの製造～販売のサポートや、新たな特産品（とうもろこしや栗を使用した新商品）の企画～製造サポート。

2



協力隊の広報活動

自分たちの活動や人柄を知ってもらうために「森町地域おこし協力隊新聞」を毎月発行中。取材～編集を行う。（普段は四コマ漫画も担当）

3



森町の関係人口作り

静岡文化芸術大学(母校)の学生と農家さんをつなぐなど、地域と多様に関わる「関係人口」作りに携わるほか鍛冶島地区で交流拠点「たまどん」を整備中。

4



町のイベント参加など

昔からある町内のイベント（産業祭&農業祭や町並みと蔵展など）への出展や、新たなイベント（実験店舗 TANEMO）のスタッフ参加など。

森町地域おこし協力隊新聞

令和5年（2023年）

2月

第8号

メンバー紹介

地域おこし協力隊

佐野 祥

横山 春人

松葉 知香 (パチカ)

移住コーディネーター

岩瀬 進哉

森町役場

定住推進課

1月の活動報告

佐野

- 友田家関連
田んぼ整備、梅の剪定
- ゲストハウス関連
ゲストハウス床張り他
- 手仕事関連
竹炭作り、キムチ作り
- イベント関連
山ノ上ノ音楽会(4)準備、暮らしづくりのフィールドワーク
- その他
町蔵ミーティング参加、分野別起業・專業化研修他、農泊アドバイザー派遣研修

横山

- 移住定住
移住相談、全国移住フェア、移住者住まい作りの手伝い、空き家調査（城下）
- 交流田んぼ
動物柵撤去、おみそ作り
- 関係人口
農泊アドバイザー派遣研修、地域プロデュース講座
- 環境保全
環境再生医資格試験、木製生ゴミコンポスト開発

松葉

- 商品開発関連
栗ビール・栗ジャムの準備
- 広報関連
協力隊新聞編集作業
- 関係人口創出
静岡文化芸術大学4年生卒制×地域とのマッチングサポート、鍛冶島交流拠点整備、農泊アドバイザー派遣研修
- その他
分野別起業・專業化研修

岩瀬

- 移住定住相談
移住・店舗相談、静岡まるごと移住フェア
- 空き家の調査
城下地区
- 空き家活用推進
旧レコード店改修、鍛冶島交流拠点整備
- 関係人口創出
農泊アドバイザー派遣研修、地域プロデュース講座



僕と森町 — 時々オトン —

オトンの決断、自分も探し、見つけた道しるべ

おとんが「自分の人生に向き合おう」と役所をやめ、落語家になると決心をした。それは、僕の描く大人像、そしてこれからの人生をひっくり返すには十分過ぎる衝撃だった。

医療の道に進んでいたが、何か思い描いた世界とのギャップに悩み苦しい時期が続いていた僕は、「自分の人生に向き合おう」と立ち止まることにした。そこから、いろいろな世界を知ろうと、初めて訪れた沖縄のある牧場施設で小さな光を見つけた。

そこでは、牛や馬、ヤギを飼いながら、自分たちで家を建て、日々生活の水を汲みに行く。動物たちのふんで肥料を作り、野菜を育てる。暮らしに必要なものはできるだけ自分たちで作る、自給自足の暮らしがあった。自分より二回りも年上のおじさんが、「こうして動物や植物と生きて、その恵みが自分たちにも回ってくる。循環してるんだよ。」とキラキラした笑顔で汗をかき働いていた。便利な環境で育った僕は、見るもの全てが衝撃的で、ここで働く大人たちの姿、生き方に探していた何かを見つけたような気がした。

少し悩んだのち、この直感を信じようと思い切って、その牧場施設に志願し就職させてもらえることになった。沖縄へ渡り大自然の中、動物たちに囲まれ、日々タタタに汗を流す仕事と自給自足の暮らしが始まった。

そこで働き暮らした4年間。自分の中に「自然とつながり暮らす幸せ」という人生の道しるべができていた。そして出会った妻と、自分たちもそんな暮らしを作りたいことと、たくさん経験をもたらした牧場を退職し、道しるべを胸に「自然とつながる暮らし」を作る旅が始まった。

横山春人(ヨコヤマハルト)・森町地域おこし協力隊

家族で「自然豊かな場所で暮らしたい」と、様々な市町を訪ね、森町の自然の豊かさと温かい地域に魅せられ移住。地域や自然に学びながら、持続可能な地域づくりに取り組んでいる

移住コーディネーター通信

移住コーディネーター
いわせしんや
岩瀬進哉



2023 3.11 sat 午後 11:30 開演 13:00

自徳院 (登録原価 5,221)

やじい&かむあぞうトライブ

OKI 堀内加奈子 PA ナンチャン

早割 3,500円 前売 4,000円 当日 4,500円

food & drink: Peace Tea Factory, なごみ, カタコト食堂, 福屋ワークス

shop: SHU wooden tableware, HowCreation, ヌボトロード音創

主催: 森町地域おこし協力隊

共催: 企業・産界 slowPorch, 森町

協力隊の活動記録

地域おこし協力隊
さのしょう
佐野 祥

里山の暮らしを最高だと思う一方で、若い世代が出ていき、大きな集いも徐々に減り、寂しくなってきた山間地域。また、子連れで音楽などを楽しめる催しも少ない森町。子育て世代が、自然や歴史溢れる環境の中で、気兼ねなく音楽を聴く機会をつくりたい。そんな想いで「山ノ上音楽会」を始めました。次の3月で、4回目を迎えます。ご参加、ご協力、ご声援お待ちしております。

地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。隊員は各自自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年以上、3年未満です。

連絡窓口のご案内

森町役場 (定住推進課)

0538-85-6321



毎年人口が減り続けている現代の日本。森町人口統計表によると1995年8月の21856人をピークに2023年1月現在17431人と、森町も30年弱で約4400人が減少したことになります。近年では年間2000人ほどの人口減が続いており、2060年に約1万人になると推測されています。人口減には出生率の低下、都市への人口流出など様々な要因があります。森町では2060年に人口13000人の確保を目指し、

町外からの移住者を増やすとともに、若い方の町への定住を促し、町の維持活性を図る取組が行われており、私も移住コーディネーターとしてその一端を担っています。2021年度に定住推進課との関わりがあつて森町に移住された方々は37世帯52人。少しずつの成果も、未だ転出数が転入数を上回っている社会減の状態です。当面の目標は転入数を増やし社会増の状況にすること。そのために日々活動しています。